

令和7年度 岡山県立笠岡商業高等学校 学校評価書

「めざせ日本一！ めざせ自分一！」 ～誰かとの比較でなく、自分基準での最高をめざそう～

(A：目標を上回った B：ほぼ目標どおり C：目標を下回った)

学校経営目標	担当	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価(中間)	評価	自己評価(最終)	評価	評価
				達成状況		達成状況		
1 生徒一人一人が「学びがい」を実感する学習活動 ○自ら学ぶ気持ちを育成し、学習習慣の定着と基礎学力の向上に取り組ませる。 ○ゆかりタイム、部活動、生徒会活動、社会貢献活動等生徒が自信を持てる取組を進める。 ○図書館利用やタブレットの活用を推進し、読書の習慣や探究する楽しさを身につけさせる。 2 新時代を生き抜く力の育成 ○5つの力を意識した自主的・主体的な活動を促進する。 ○失敗を恐れずに、高い目標(進路・検定等)を持ち、最後まで挑戦する姿勢を育成する。 ○あいさつや言葉遣い、時間管理や健康管理について高い意識を持たせる。	教務	・学習時間調査を年2回(4月・11月)実施する。結果を校内で共有し、生徒面接等を通じて学習習慣の定着を促す。 ・基礎学力の向上のため、教科と連携して週末課題や長期休業中の課題を課し、継続的に学習に取り組ませる。その手段の一つとしてスタディサブリの効果的な活用方法を研究する。 ・6月と11月を授業公開月間とし、魅力ある授業を実現するための研修の機会を設定する。 ・図書館の環境整備や学習に役立つ図書を購入を行い、生徒の主体的な学習活動を支援する。 ・1・2学期末考査後に「朝読書」を実施し、生徒の読書の機会を増やす。	・学習時間調査を年2回(4月・11月)実施し、第2回(11月)の調査における「授業以外での学習時間が30分未満の生徒」が20%以下(前年度27.4%) ・学校自己評価アンケート「授業改善のため、校外で行われる研修会等に参加してスキル向上に努めている」が85%以上(前年度71.4%)	・4月の学習時間調査における「授業以外での学習時間が30分未満の生徒」は34.1%であった。 ・授業公開月間(6月)や外部講師を招いた研修の実施、校外の研修への参加の呼びかけなど授業改善に向けた取組が進んでいる。	B	・11月の学習時間調査では「授業以外での学習時間が30分未満の生徒」が40.3%となり、残念な結果となった。4月に比べて「30分未満」の生徒よりも「学習していない」と答えた生徒が増えている。学習時間を含めた基本的な生活習慣の確立に向けた指導が必要である。 ・学校自己評価アンケートの「授業改善のため、校外で行われる研修会等に参加してスキル向上に努めている」の項目については、肯定度85.2%となり目標を達成することができた。	B	B
	生活指導	○学校行事に関するもの ○挨拶、マナー、規範意識などについて、生徒会執行部の生徒や各種委員会の生徒たちに、それぞれの立場からさまざまな場面で全校生徒への啓発活動を行わせる。	学校自己評価アンケート(生徒用) ・学校行事は生徒が自主的に参加し、感動を覚え、達成感を持てるものになっている。→99%以上(前年度98.8%) ・自分は、挨拶、マナー、言葉遣いなど、相手を敬う態度やコミュニケーション能力が身に付いてきている。→98%以上(前年度97.4%)	・生徒会執行部や各種委員会の生徒たちに可能な限り、全校生徒への呼びかけの場を設けている。 ・日常生活において、挨拶やマナー、言葉遣いなどがきちんとできている生徒が増えている。	学校自己評価アンケート(生徒用)から ・学校行事は生徒が自主的に参加し、感動を覚え、達成感を持てるものになっている。→97.8%(目標99%以上) ・自分は、挨拶、マナー、言葉遣いなど、相手を敬う態度やコミュニケーション能力が身に付いてきている。→97.5%(目標98%以上) 目標値にはわずかに届かなかったが、ほとんどの生徒は学校生活に積極的に取り組んでいる。	B	B	B
	進路指導	・学ぶことの重要性を理解し、基礎学力の向上や自学自習の習慣化、面接練習への自主的、主体的かつ計画的な取り組みを促す。 ・笠商手帳(スケジュール帳)を活用させ、先を見通した自己管理能力を身に付けさせる。自分の履歴を残すことで、PDCAを実践する。 ・スタディサブリを利用したキャリアパスポートの作成を行う。	・3点学習の自主的な提出率80% ・アクティブ天の提出率80% ・就職希望者・進学希望者ともに面接練習を一人11回以上100%実施	・今年度から3点学習の内容を変更し、より取り組みやすい学習となっているが、7月末時点で自主的な提出率は67%にとどまっている。現在も取り組んでいる生徒がため、最終的に80%以上の提出率を目指す。 ・アクティブ天の提出率は、7月末現在92.1%とかなり高い提出率となっている。担任の先生方が協力してくださった結果である。 ・現在就職試験に向けた面接練習を生徒が行っている。また、進学者の総合型選抜試験も始まっており、本番で力を発揮できるよう準備を促している。 ・キャリアパスポートについては年度当初の目標設定をスタディサブリで作成している。	・新しい試みとなった3点学習については、多くの生徒がしっかりと取り組んでいた。その反面、進路希望の変更で取り組みをやめた生徒がいたため、最終的な提出率は79.3%にとどまった。来年度はもう少し早期から開始し、定着を図る。 ・アクティブ天の提出率は最終的に87.1%となり、目標を達成することができた。今後でもできるだけ生徒が主体的に取り組む、新聞記事を通して社会情勢に興味関心を持つ姿勢を身に付けるよう指導する。 ・3年生が面接練習を行った回数は、平均で8回、11回以上面接練習を行った生徒は33.6%であった。感染症による学年閉鎖もあり、思うように練習できなかった生徒もいたが、多くの生徒が意欲的に練習を行っていた。	B	B	B
	総務	○笠商の魅力発信をしっかりと行う。 ・HPやSNSでのタイムリーな情報発信 ・マスコミ等の活用 ○笠商5つの力の意識向上を図る。 ※かさしよう5つの力 かしくつながり (つながる力) さらに考え (考える力) しっかりと創造し (創造する力) よへく地域を愛し (地域を愛する力) うれしく人のために動く (人のために動ける力)	①HPならびにSNSでの情報発信を100件以上 (R6年度HP120件 SNS150件) ②保護者のHPならびにSNSの閲覧を70%以上 (R6年度HP62.9% SNS64.0%) ③マスコミ報道50件以上 (R6年度60件) ④日々の生活の中で笠商5つの力を意識して取組んだ割合を70%以上 (R6年度30.9%)	①ブログ更新状況(8月末) 4月:6件 5月:8件 6月:5件 7月:3件 8月:3件 計25件 フェイスブック・インスタグラムも同様に更新を行っている。 ②オープンスクール参加の中学生保護者 ・HPの閲覧 よく見る・時々見る 67.7% ブログの閲覧 33.3% ・インスタグラムの閲覧 よく見る・時々見る 30.1% 今後もし引き続き、情報発信を行っていく。 ③マスコミ報道 特に目立った報道なし 地域イベントの参加や商品開発などの活動もあるが、マスコミへの投げかけが不十分であった。	①学校の魅力発信 ・ブログの更新 50件 ・フェイスブック 107件 ・インスタグラム 74件 ②保護者のHPならびにSNSの閲覧 保護者のHPの閲覧 62.9% 保護者のSNSの閲覧 61.6% 中学生保護者の閲覧 67.7% ③マスコミ報道 (新聞) ・野球部の21世紀枠推薦 ・笠岡諸島観光プラン (テレビ) ・笠岡諸島観光プラン(OHK) ・ありがとうマルシェ(OHK) マスコミ報道は大きく減少した	B	B	B
	1年団	学年目標 Challenge Yourself～踏み出そう～ 笠商生としての基本(5つの力)を身に付ける ・自分らしさを大切にしながら、仲間とのつながりを深め、信頼関係を築く。 挨拶を大切にし、お互いを認め合うことで温かい雰囲気を作る。 ・課題に対して、まずは自分で考えて調べ、自ら行動できる生徒を育成する。 笠商手帳を活用し、計画的に見通しを持って取り組む力を養う。 タブレットを有効活用すると共にスタディサブリを活用しながら基礎学力を身に付ける。 一人ひとりの力を発揮し、仲間のために何ができるかを考え、自分にできることを実践する力を養う。	学校自己評価アンケート(生徒用)の結果 ・学校に行くのが楽しい(100%) ・自分の学力は向上してきている。(85%以上) ・自分は、挨拶、マナー、言葉遣いなど、相手を敬う態度やコミュニケーション能力が身に付いてきている。(95%以上) ・高校入学後、他人を思いやる心を持って行動する意識が高まった。(95%以上) ・ICTを活用することで、学習に主体的に取り組めた。(95%以上)	・学校に行くのが楽しい(87.6%) ・自分の学力は向上してきている。(80.0%) ・自分は、挨拶、マナー、言葉遣いなど、相手を敬う態度やコミュニケーション能力が身に付いてきている。(95.8%) ・ICTを活用することで、学習に主体的に取り組めた。(94.2%) ・高校入学後、他人を思いやる心を持って行動する意識が高まった。(95.8%) ・ICTを活用することで、学習に主体的に取り組めた。(95%以上) ・自分自身、挨拶、マナー、言葉遣いなど、相手を敬う態度やコミュニケーション能力が身に付いてきている。(95.1%) ・ICTを活用することで、学習に主体的に取り組めた(93.5%)	・学校に行くのが楽しい(95.0%) ・自分の学力は向上してきている。(90.0%) ・自分は、挨拶、マナー、言葉遣いなど、相手を敬う態度やコミュニケーション能力が身に付いてきている。(96.0%) ・高校入学後、他人を思いやる心を持って行動する意識が高まった。(99.0%) ・ICTを活用することで、学習に主体的に取り組めた。(97.0%) 全ての項目で中間評価の数値より高くなり、肯定的に評価されている。特に「学校に行くのが楽しい」と感じている生徒が多くなったことは、授業をはじめ二大行事や部活動、様々な取り組みによる評価と捉える。特に本校では上級生との繋がりも大きな要因だと考えられる。当初の目標をほぼ達成することができた。次年度に向けて、学力向上と、検定取得に向けても意識づけを行っていききたい。また、引き続き、学校生活が充実したものになるよう様々な場面で声かけを行っていききたい。	B	A	B
	2年団	学年目標 ホップ・ステップ・ジャンプ 一歩前進 想像力を高め、将来を意欲した生活を送る。 自主的・主体的に活動することにより、5つの力を育てる。 ・自分らしさを大切にするとともに、他者理解に努め、学校が生徒にとって居心地の良い場所となり、学校へ来るのが楽しいと思えるようにする。 ・気持ちの良い挨拶が自然にできるような雰囲気を作る。 ・授業を大切にし、笠商学習支援サイトやスタディサブリを活用しながら自主学習を通して学力を向上・定着させる。 ・最初は失敗しても良いので、自分たちで考えて行動できる生徒を育成する。 ・タブレットで情報を得て笠商手帳でメモをし、情報を自己管理して見直しを持って取り組む力を養う。 ・お互いに声を掛け合い、助け合い、周りを見て自分にできることを考えて行動する力を養う。 ・生徒の成長を信じ、自分たちで考えて行動できるよう、まずは見守り、本当に困ったときに助ける。	学校自己評価アンケート(生徒用)の結果 ・学校に行くのが楽しい(100%)。(昨年度90.6%) ・自分の学力は向上してきている(85%以上)。(昨年度82.9%) ・自分は、挨拶、マナー、言葉遣いなど、相手を敬う態度やコミュニケーション能力が身に付いてきている(100%)。(昨年度97.4%) ・高校入学後、他人を思いやる心を持って行動する意識が高まった(100%)。(昨年度90.3%) ・ICTを活用することで、学習に主体的に取り組めた(95%以上)。(昨年度94.9%)	・学校に行くのが楽しい(90.2%) ・自分の学力は向上してきている(77.2%) ・自分は、挨拶、マナー、言葉遣いなど、相手を敬う態度やコミュニケーション能力が身に付いてきている(95.1%) ・高校入学後、他人を思いやる心を持って行動する意識が高まった(98.4%) ・ICTを活用することで、学習に主体的に取り組めた(93.5%)	・学校に行くのが楽しい(89.8%) ・自分の学力は向上してきている(81.5%) ・自分は、挨拶、マナー、言葉遣いなど、相手を敬う態度やコミュニケーション能力が身に付いてきている(96.3%) ・他人を思いやる心を持って行動している(98.1%) ・ICTを活用することで、学習に主体的に取り組めた(94.4%) 「学校へ行くのが楽しい」の数値が伸びないのが悩みではあるが、修学旅行は全員が参加できたので、その点は良かったと思う。 「自分の学力は向上してきている」は少しずつ上がってきているので、ここからは、進路実現という目標に向けて一段と頑張らせた。	B	B	B
	3年団	学年目標 礼・笑顔・挨拶・挑戦 ・最初の礼と最後の礼を大切に相手に敬意を示す。 ・笑顔と挨拶を絶えず信頼を得る。 ・さわやかな挨拶をし、多くの人のコミュニケーションをスタートさせる。 ・後ろ向きならず、前を向いて何事にも挑戦する態度を養成する。 ・スタディサブリを利用して家庭学習習慣の定着と基礎学力の向上に取り組ませる。 ・部活動を最後までやりぬくことを目指す。生徒会活動、社会貢献活動を通して、リーダーとしての自覚を育てよう指導する。 ・タブレット・笠商手帳の活用をしてメモを取る習慣を身につけさせ、社会人として通用する人物に成長させる。	学校自己評価アンケート(生徒用)の結果 ・学校に行くのが楽しい(99.8%) ・自分は授業において自主的・主体的に学習に取り組むことができている(93%以上)。(昨年度90.3%) ・学校行事は生徒が自主的に参加し、感動を覚え、達成感をもてるものになっている(100%以上)。(昨年度99.1%) ・所属する部で、自主的に活発に活動できる(90%以上)。(昨年度88.5%) ・ICTを活用することで、学習に主体的に取り組めた(98%以上)。(昨年度97.3%)	・学校に行くのが楽しい(98.9%) ・自分は授業において自主的・主体的に学習に取り組むことができている(98.9%) ・学校行事は生徒が自主的に参加し、感動を覚え、達成感をもてるものになっている(98.9%) ・所属する部で、自主的に活発に活動できる(94.5%) ・所属する部で、自主的に活発に活動できる(92.5%) ・ICTを活用することで、学習に主体的に取り組めた(100%)	・学校に行くのが楽しい(96.3%) ・自分は授業において自主的・主体的に学習に取り組むことができている(96.3%) ・学校行事は生徒が自主的に参加し、感動を覚え、達成感をもてるものになっている(99.1%) ・所属する部で、自主的に活発に活動できる(92.5%) ・ICTを活用することで、学習に主体的に取り組めた(98.1%) すべての項目で肯定土が高い割合を維持できた。卒業に向けて今一度気を引き締めて行動するよう指導していききたい。	A	A	A
	商業科	・先行きが不透明な時代を生き抜くためにDX人材を教職員・生徒ともに意識して、課題解決のために、ICT機器を利用して、創造的に解決する力(資質・能力)を身に付けさせる。 ・スタディサブリを有効に活用し、自主的な家庭学習を定着させ、商業についての基本的な知識・技術を確実に身に付けさせる。 ・「5つの力」を意識した(特に意識させる)自主的・主体的な活動を促進する。	学校自己評価アンケートの「本校では、時代に即したビジネス教育を受ける機会がある」についての肯定的意見が95%以上(生徒割合昨年度96.2%) ・「5つの力」についてのアンケート(1年生)では肯定的意見が①つながる力85%以上、②考える力95%以上、③創造する力80%以上、④地域を愛する力(心)80%以上、⑤人のために動ける力90%以上(昨年度1年生①88.6%②97.6%③82.1%④83.7%⑤93.5%)	・学校自己評価アンケートについては中間時期では実施していない。 ・「5つの力」についてのアンケート(1年生)では肯定的意見が①つながる力では95.8%、②考える力では93.3%、③創造する力では85.0%、④地域を愛する力(心)では82.5%、⑤人のために動ける力では94.2%であった。③創造する力と④地域を愛する力(心)について基準はクリアしているものの、今後授業、行事等で教員も念頭に置いた指導が必要と思われる。	・学校自己評価アンケートの「本校では、時代に即したビジネス教育を受ける機会がある」についての肯定的意見が95.9%であった。(生徒割合昨年度96.2%) ・「5つの力」についてのアンケート(1年生)では肯定的意見が①つながる力では98.3%、②考える力では95.0%、③創造する力では90.1%、④地域を愛する力(心)では77.7%、⑤人のために動ける力では93.4%であった。④について基準をクリアできなかった。次年度では、より多くの生徒に地域へ出向く機会を設けていききたいと考える。	B	B	B

令和7年度 岡山県立笠岡商業高等学校 学校評価書

「めざせ日本一！ めざせ自分一！」 ～誰かとの比較でなく、自分基準での最高をめざそう～

(A：目標を上回った B：ほぼ目標どおり C：目標を下回った)

学校経営目標	担当	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価(中間)		評価	自己評価(最終)		評価	評価
				達成状況	達成状況		達成状況	達成状況		
3 地域に信頼される学校づくりの推進 ○ 中学校(生徒・保護者・教員)へのPR活動および連携の強化を図る。 ○ 地域にホンキ(人材)やホンモノ(教材)を求め、地域の教育力を積極的に活用する。 4「創意」と「チャレンジ」の精神にあふれる組織力の高い職場づくり ○ 生徒一人一人の成長を促す魅力ある授業を実現するための「学びあい」や研究を進める。 ○ 協働意識が向上し、コミュニケーションを大切に對話ができる職場環境をつくる。 ○ 効率の良い働き方を意識する。(残業時間:月45時間2カ月平均80時間以内)	教務	・Google Workspace for Education、採点システム、スタディサプリ等を積極的に活用し、業務の効率化を推進する。 ・朝礼や会議のあり方について検討し、時程の見直しを行う。	・職員朝礼連絡のクラウド化、職員会議資料のデジタル化についてさらに改良を進める。 ・朝礼、会議のあり方や時程については、1学期中に検討を行い、2学期末までに次年度の方針を決定する。	・Google Workspace for Education、採点システムについては順調に活用されており、スタディサプリについても活用方法について研究が進んでいる。 ・時程の見直しについては、来年度からの変更に向けて検討を進めている。	B	・会議資料や配布資料、職員朝礼での連絡事項のデジタル化を進め、採点システム、スタディサプリの活用を呼びかけた。生徒への連絡もClassroomで行うようにし、朝のSHRの時間を短縮することができた。 ・職員会議の開始時間の見直しや期末考査後の特別時間割期間の時程の変更を行った。来年度からの授業の時程についても見直すことができた。	A			
	生活指導	・地域に出向いての活動やボランティア活動など、積極的な呼びかけを行う。 ・担任や学年団、教育相談室が連携をし、いじめや生徒の悩みを早期発見・早期対応ができる体制をつくる。 ・各部活動が具体的な目標を設定し、その実現を目指して活動できるようにする。	学校自己評価アンケート(生徒用) ・地域活性化やボランティア等、地域に出向いての活動に参加している。→60%以上(前年度57.8%) 学校自己評価アンケート(教職員用) ・あなたは、特別支援教育に対する理解を深めている。→95%以上(前年度92.9%) ・あなたは、所属部活動が活発になるように工夫し、支援している。→95%以上(前年度92.9%)	・地域に出向いての活動やボランティア活動などに積極的に参加している生徒が増えている。 ・1学期末に生活アンケートを行い、気になる生徒の情報共有を行った。 ・運動部、文化部とも、目標に向けて活発に活動している。	B	学校自己評価アンケート(生徒用)から ・地域活性化やボランティア等、地域に出向いての活動に参加している。→61.6%。(目標60%以上) 学校自己評価アンケート(教職員用)から ・あなたは、特別支援教育に対する理解を深めている。→100.0%(目標95%以上) ・あなたは、所属部活動が活発になるように工夫し、支援している。→96.3%(目標95%以上) ・目標値はすべて達成することができた。 ・地域でのさまざまな活動に取り組んでいる生徒は増加している。 ・2学期末にも生活アンケートを行い、気になる生徒の情報共有を行った。 ・どの部活動も活発な活動ができるように心がけ、SNS等で情報発信している部も多い。	A			
	進路指導	・地域の企業の訪問や卒業生や地域の方による講演会により、就職や進学の進路意識の高揚と進路実現に活かす。 ・学年団と担任・進路コーチとの連携を図り、生徒との面談を多く実施することにより、生徒理解と希望する進路実現を目指す。 ・将来の地元地域への貢献を見据えた進路指導を行い、自己の進路目標を明確にさせる。	・卒業生による年1回の講演会、地域の企業を招いた説明会、各学年の年1回の進路ガイダンスを必ず実施。 ・国公立と難関私立大への進学者が10名(2桁)を超える。 ・就職一次希望内定者が100%。	・全学年を対象に、卒業生の声を聞く会(講師5名)を実施し、進路に対する意識の高揚を図った。また、3年生対象の進路ガイダンスを6月に実施し、就職希望者に対する各事業所(11事業所)、進路希望者に対する各大学等(15大学、17専門学校)によるガイダンスを行った。 ・現在国公立大学受験予定者は13名となっている。 ・今年度は24名が一般企業に応募している。(昨年度33名)	B	・当初目標の卒業生による講演会、笠岡市役所と連携した井笠地域の企業説明会、各学年1回の進路ガイダンスは100%実施できた。学校自己評価アンケートの回答でも、進路決定の情報提供については生徒は前年度比1.6%、保護者は1.7%増となっている。 ・12月末時点で、国公立大学 滋賀(1)山口(2)長崎(1)尾道(3)周南公立(1)私立大学と併せると目標を達成できている。 ・就職は1次試験で25名が100%内定した。公務員希望者も3名が合格し、就職希望者全員が進路を決定することができた。	A			
	総務	○地域へのボランティアへの主体的参加を促す。 ・Classroomを活用して周知の徹底を図る ○オープンスクールでの笠商魅力アップを図る。 ・中学校への周知 ・全国募集に向けた取組 ・生徒(笠レンジャー)を活用する ○ICT機器活用の推進を図る。	①ボランティア等、地域の活動に参加を70%以上 (R6年度57.8%) ②12月の1次希望調査で120名を上回る (R6年度136名) ③ICT活用に関する項目を各々90%以上	①夏ボラを中心に参加を行っているが、学校を通じた参加は把握できるが個々の参加についての集約は難しい。今後も積極的に働きかけていきたい。 ②第1回オープンスクール参加者(2日間延べ人数) 生徒 333名 保護者 119名 (R6年度 生徒 295名 保護者 69名) 生徒・保護者とも昨年より参加者が増加し、関心の高さがうかがえる。 アンケートからも満足度の高いオープンスクールとなった。 ③ICTリーダーによる研修会を職員会議後に実施した。	B	①ボランティア等、地域活動に参加 61.6%(R6年度57.8%) 部活動や様々な行事との兼ね合いから参加が難しい面もあり、様々な団体からの要望にこたえきれなかった。 ②12月の1次希望調査 112名(0.93倍) ・オープンスクール参加者 第1回 333名(保護者119名) 第2回 100名(保護者43名) オープンスクールの回数を昨年より1回減らしたが、参加者は大きな減少とはならなかった。しかし、再編整備の動向について質問する保護者もあり、今後も厳しい状況が続くものと思われる。 ③ICTに関して 学校自己評価からは各項目とも90%を超えている。 ・ICTの活用が授業の興味関心に 95.9%(生徒) ・情報活用能力が身につけている 94.3%(保護者) ・校務全般でICTを活用 100.0%(教職員)	B			
	1 年 団	・白石島研修をきっかけに地域やその課題に興味を持たせると共に、2年生の総合的な探究の時間へとつなげる。 ・生徒の情報交換をこまめに行い、気になる生徒がいた場合は必要に応じて学年団で対応する。 ・同僚性を高め、日頃からコミュニケーションをとり、互いに協力し合える職場環境を作る。 ○ 効率の良い働き方を意識する。(残業時間:月45時間2カ月平均80時間以内)	学校自己評価アンケート(生徒用)の結果 ・地域活性化やボランティア等、地域に出向いての活動に参加している(50%以上)。 ・悩んだり困ったことがあれば、さまざまな機会に先生に相談することができる(70%以上)。 ・学年団会議や毎日の学年朝礼を通して、学年団の教員間で共通理解を持ち、クラス運営や学年運営を行うことができている。 ・コミュニケーションをとり、助け合うことで心理的安全性を高めることができる。	・地域活性化やボランティア等、地域に出向いての活動に参加している。(45.5%) ・悩んだり困ったことがあればさまざまな機会に先生に相談することができる。(72.5%) 白石島研修が無事終了し、生徒にとって環境問題について考える機会や自然の中で友達との交流を深めながら、地域の良さにも気づくことができた大変充実した研修であった。研修後の生徒のアンケートにも充実した様子の感想が多く書かれていた。 生徒情報について週1回の学年会議や日頃の朝礼を通じて、共有することができている。長欠の生徒や気になる生徒について、担任の先生方がこまめに声をかけており、今後も生徒の情報交換を欠かさず行っていきたい。	B	・地域活性化やボランティア等、地域に出向いての活動に参加している。(54.0%) ・悩んだり困ったことがあればさまざまな機会に先生に相談することができる。(87.0%) 2つの項目で中間評価の数値より高い評価となり、また当初の目標数値においても達成することができた。地域への活動については、次年度総合的な探究の時間を活用して主体的に取り組ませていきたい。 また、生徒情報について学年会議や日頃の朝礼を通じて共有することができた。担任の先生方がこまめに声をかけてくれることで、笠商生としての自覚を持つ生徒が増えている。今後も学年団の情報交換を欠かさず、生徒の成長過程の支援をしていく。	B			
2 年 団	・総合的な探究の時間や社会貢献活動、行事で地域について知り、地域の方と触れ合う機会や体験を通して地域に貢献しようとする姿勢を養う。 ・学年団で情報を共有し、気になる生徒や状況があれば速やかに対応する。 ・日頃からコミュニケーションをしっかりととり、助け合いながら効率よく仕事を進める。	学校自己評価アンケート(生徒用)の結果 ・地域活性化やボランティア等、地域に出向いての活動に参加している(50%以上)(昨年度48.7%)。	・地域活性化やボランティア等、地域に出向いての活動に参加している。(56.9%) 総合的な探究の時間に笠岡駅周辺のフィールドワークを行った。地域に興味を持ち、課題を発見し、これから解決策を考えていく中で地域に貢献しようという姿勢を身に付けてほしい。 学年団は大変まとまりがあり、情報共有もでき、助け合いながら仕事が出来ている。	B	・地域活性化やボランティア等、地域に出向いての活動に参加している。(57.4%) 総合的な探究の時間を通して、地域に対する意識が高まった。各グループの発表では、今までにない切り口で地元の問題点や良いところを見つけ自分たちなりによく考えていた。部活動等を引退したら、時間ができるので、地域の活動にもっと参加してくれるのではないかと期待している。 学年団は非常にまとまりがあるので、気になる生徒についても常日頃から話ができていく。	B				
3 年 団	・朝のSHR、放課後のSHRに必ず2名の担任等でいき、緻密に観察を行い、クラスの生徒理解・情報共有に努める。 ・学年団会議で情報交換をこまめに行い、問題行動の早期発見・未然防止に努める。 ・良い情報(生徒の各種の頑張り、部活の成果など)は、教員・生徒ともに情報共有を積極的にし、お互いを高め合う。	・2名の担任等で生徒を観察することで、より生徒理解・情報共有を深め、問題行動の防止、早期発見になる。 ・学年団会議で情報交換をこまめに行うことで、問題行動の早期発見・未然防止・解決策の提案などにもなる。 ・良い情報(生徒の各種の頑張り、部活の成果など)は、教員・生徒ともに情報共有を積極的にすることで、より学年のチームワークや一体感を増やすこととなる。	・2名の担任等で生徒を観察することで、生徒理解・情報共有を深め、問題行動の防止、早期発見になり生徒のコミュニケーション能力も高められている。 ・学年団会議では、情報交換をこまめに行い、問題行動の早期発見・未然防止・解決策の提案などの情報共有ができた。 ・良い情報(生徒の各種の頑張り、部活の成果など)は、朝礼等で確認し、教員・生徒ともに情報共有を積極的にすることで、より学年のチームワークや一体感を高められている。 ・地域文化の継承の面から秋祭り等への参加ができるように紹介等していく、地域とのつながりやボランティア活動の推進に力を注いでいきたい。	A	・2名の担任等で生徒を観察することで、生徒理解・情報共有を深め、問題行動の防止、早期発見になり生徒のコミュニケーション能力も高められている。 ・学年団会議では、情報交換をこまめに行い、問題行動の早期発見・未然防止・解決策の提案などの情報共有ができた。 ・良い情報(生徒の各種の頑張り、部活の成果など)は、朝礼等で確認し、教員・生徒ともに情報共有を積極的にすることで、より学年のチームワークや一体感を高められている。 ・十分とは言えないが、地域文化の継承の面から秋祭り(神輿担ぎ)への参加ができるように紹介等できたが、現実的には少人数の参加になった。地域理解の面からも、地域とのつながりやボランティア活動の推進に力を注いで行く必要がある。	A				
商業科	・笠商の魅力は「生徒」である。その魅力を前面に出す取り組みを推進する。(学校のPRと生徒の成長のため)。 ・各科目担当者で教材(デジタルデータ)の共有を推進する。授業改善にも取り組み、教員同士助け合いながら、働き方改革を意識する。	・出前授業や地域のイベントなどの活動に参加する生徒の人数の増加(昨年度出前授業:7件)。 ・各種コンテスト等における大会出場、および上位入賞を果たす(昨年度:中国大会3件、全国大会3件)。	・出前授業での生徒参加人数は11名である(9/11現在8件)。曜日の都合等で参加が難しい場合もあったが、生徒は積極的に参加してくれている。中学校側からも好評をいただいている。引き続き生徒参加をお願いしていく。 ・笠SHOP探究班(中国大会出場)、珠算部(全国大会個人2名出場)(9月現在)今後に期待したい。	B	・中学校からの出前授業の希望は中間評価以降なかった。生徒参加人数は11名のままである。(1月現在8件)(昨年度 出前授業:7件)中学校側からも好評をいただいている。広報の意味合いからも引き続き生徒の参加をお願いしていきたい。 ・笠SHOP商品開発班では4商品を開発し、地域のイベントで販売した。観光班は高島、北島島を巡る日帰りツアーを実施し、ツアーガイドを務めた。 ・珠算部(全国大会、中国大会ともに個人2名出場、うち中国大会電卓3等、珠算優良賞)笠SHOP探究班(中国大会優秀賞)、ワープロ部(中国大会団体出場優良賞)(1月現在)	B				